

東京2020オリンピック競技大会

ボツワナ共和国及びチュニジア共和国の オリンピック代表チームの事前キャンプを実施します。



このたび、ホストタウンとして交流を深めてきたボツワナ共和国及びチュニジア共和国のオリンピック代表チームによる事前キャンプが、本市において実施されることについて、両国のオリンピック委員会との間で覚書を締結しました。

受入れにあたっては、「プレイブック」等に基づき、選手団の宿泊、練習、移動など各場面に応じた感染症対策を徹底し、安全・安心な事前キャンプ運営を実現します。

1 事前キャンプの概要

(1) ボツワナ共和国 オリンピック代表チーム

- キャンプ期間 2021年7月7日(水)～29日(木) (23日間)
- 選手団人数 25人
- 競技 3競技(陸上、水泳、ウエイトリフティング)
- 練習会場 日本体育大学 横浜・健志台キャンパス(青葉区)、武相中学・高等学校(港北区)

(2) チュニジア共和国 オリンピック代表チーム

- キャンプ期間 2021年7月10日(土)～26日(月) (17日間)
- 選手団人数 8人
- 競技 2競技(アーチェリー、柔道)
- 練習会場 日本体育大学 横浜・健志台キャンパス(青葉区)、武相中学・高等学校(港北区)



日本体育大学 横浜・健志台キャンパス(青葉区)



武相中学・高等学校(港北区)

2 覚書について

覚書は、キャンプの概要、対象施設、新型コロナウイルス感染症対策等について定めるものです。両国について、以下の日程で締結しました。

- (1) ボツワナ共和国 2021年6月21日 締結
- (2) チュニジア共和国 2021年6月29日 締結

(裏面あり)

3 安心・安全な事前キャンプ運営に向けた感染症対策

両国選手団の皆様が安心して事前キャンプを実施し、市民の皆様も安心して選手団の皆様をお迎えしてもらうため、三密の回避、社会的距離の確保、マスクの着用、手洗い・消毒などの基本的対策を徹底するとともに、「プレイブック」(IOC、IPC、大会組織委員会)や国からの指示等に基づき、主に次の対策に取り組めます。

なお、昨年末以降の変異株の発生・流行など、日々刻々と変化する状況や求められる対策等に適切に対応してまいります。

① 選手団の出入国時における感染症対策

- ・ 出国前に検査を実施するとともに、陰性証明を取得し、検疫又は入国審査時に提出する。
- ・ 入国前 14 日間の健康モニタリングを提出する。
- ・ 入国時、空港にて検査を受検する（検査結果判明まで指示した待機場所に留まる）。

② 選手団の事前キャンプ期間中の感染症対策

ア スクリーニング検査

事前キャンプ地に滞在中の選手等に対し、毎日 PCR 検査を実施する。

イ 選手団の行動管理

選手等の行動は、宿泊施設と練習会場等の用務先の往復のみに限定する。

ウ 市民等との接触を避けるための対策

- ・ 公共交通機関は利用せず、専用車両で移動する。
- ・ 宿泊施設において、他の宿泊客との接触を避けるため、宿泊フロアや動線を分離する。
- ・ 食事は他の宿泊者や外部との接触を避け、宿泊施設内の専用会場で摂ることを原則とする。
- ・ 練習会場は、貸し切りを原則とし、関係者以外の立ち入りは不可とする。

③ 事前キャンプ関係者の感染症対策

- ・ 事前キャンプに関わる市職員や宿泊施設・練習会場などの関係者には、ワクチン接種（任意）や、活動に従事する 14 日前から検温・体調チェックを実施する。
- ・ 選手団との接触の度合いに応じて、定期的に PCR 検査を実施する。

4 林 文子 市長コメント

このたび、ボツワナ共和国、チュニジア共和国のオリンピック代表チームの皆様を、横浜にお迎えすることとなりました。横浜市で事前キャンプを実施する国は、英国に続き 3 か国となりました。

横浜市は、これまで 3 回にわたるアフリカ開発会議の横浜開催を通じて、アフリカ各国との絆を深めてまいりました。ボツワナ共和国、チュニジア共和国両国の皆様とも、「アフリカとの一校一国」での、横浜の将来を担う子どもたちとの心温まる交流をはじめ、多岐にわたり関係を深めています。

市民の皆様が安心して両国の代表チームをお迎えできるよう、また、代表チームの皆様がトレーニングに集中し、大会で最高のパフォーマンスを発揮していただけるよう、徹底した感染症対策のもと、しっかりと事前キャンプをお支えしていきます。

そして、このたびの事前キャンプの受入を機に、両国と横浜の間で培ってきた友好の絆を一層深め、次の世代に受け継いでいきます。

お問合せ先

市民局オリンピック・パラリンピック推進課担当課長 加藤 久雄 Tel 045-671-4596